

## 「全鍍連」 2019年5月号 いきいき地域

茨城県鍍金工業組合 佐藤 博徳 (有)佐藤電化工業所 代表取締役)

「茨城県の魅力について」



我が町、茨城県ひたちなか市では国立ひたち海浜公園のネモフィラが全国的に有名となりゴールデンウィークの連休中は観光客で賑わいます。8月にはロックフェスティバルで熱狂の町に変貌し、昨年は15万5千人の町に4日間で27万6千人もの来場者が押し寄せました。

一方、茨城県といえば魅力度全国最下位5年連続となり不名誉な記録を樹立中であります。とはいうものの少なくともこの辺りの人はあまり気にしていないようです。自虐的に「そりゃそうだ、なんにもねーから」という人もいれば「道路が混まなくていい」なんて人もいます。魅力がないというよりは、突出して知られているものが少ないという気がします。それは地域によっても違いはありますが総じて茨城県民の気質に関わりがあるのかもしれない。私の母方の実家はNHKのドラマ「ひよっこ」で舞台にもなった悠然とした田園の広がる高萩市というところにありました。子供の頃は米の収穫の時期になると親族総出で稲刈りの手伝いをさせられた記憶があります。まだ機械化は一部でしかされておらず重労働でした。おにぎりや漬物をもって出かけます。ついでにイナゴを採りながら半ば遊びで農業と自然に親しんでおりました。そんな田園風景に恵まれた時間の止まったようなところですので、のんびりした人が多いのかもしれない。

言わずと知れた広大な土地が広がる関東平野の北部地方です。データを見ると工場立地面積、耕地面積割合、1住宅あたり敷地面積はいずれも全国第一位です。ついでにゴルフ人口も毎年変わりますが2016年度は全国第一位でした。

しかし観光となると、いまひとつ。某ホテルの社長と話したとき半ばあきらめムードで、「観光資源がたくさんあるのにそれを使おうとする人も少ないし、商売がへたくそ」とこぼしていました。確かに方々にある観光地は昭和の風情が依然として残る古いタイプの観光地で目新しいものは特にありませんし、あくまで私見ですが、どれをとっても中途半端で陳腐なものが多い感じがします。それでも無名ではありますが、実際にいいところがたくさんあるので観光に関してはよく調べないと本当の良さがわからないものだと思います。

生活するには不便なようで意外と便利です。道路の実延長距離が全国で二番目に長い県です。車さえあればどこにでも行ける上、地元の人には裏道を熟知していてほとんど混雑することなく目的地に到達できます。自家用車一人1台は当たり前という、逆に言えば車が無ければ生活がままならないというのも困った事実ですが。

ともかく自然は豊富で山海の幸あり、食べ物は何でもあります。美味しい上に価格も安く、財布に無理なく口にできま

す。

労働基準監督官として全国を津々浦々回ってきた方が、茨城県の署長に就いたときが一番生活しやすく最終的には笠間市に落ち着いたと話していらっしゃいました

そんな茨城県、住むだけなら魅力がなくてものんびりしていいのですが、事業に置き換えて考えたらどうでしょうか。持っている可能性を十分に活用できていない。付加価値を見出せない。保守的で革新を受け入れない。自己満足で悦に入る。もしもそんな企業があったら良し悪しの判断は別にして「茨城県化」しているのではないのでしょうか。実は宝の山だったりする茨城県、参考にしていただければ思わぬ産物に巡り合えるかもしれません。